

《会長談話》公共財としての知の資産形成と企画構想力の強化を

永野 健/TAKESHI NAGANO

21世紀の初めの年度を迎えるにあたり、当アカデミーの政策委員会で企画構想力について的小委員会を設け、検討を重ねてまいりました結果を基に、所感を述べます。

我が国の科学技術・産業の発展を図り、人々に夢と希望をもたらすためには、知の資本を主体とした、知識経営を重視してゆくにふさわしい、企画構想力の発揮・育成がさまざまな側面で必要になると考えます。以下に1. 産業構造の望ましい変革、2. 学界に望むこと、3. 国への期待、の三点について述べます。

1. 産業構造の変革について

大量生産による安く信頼性のある「もの」の生産から、必要なものを必要なだけ造る市場規模に応じた充足型産業による、少量でも安全・安価（適正価格）な「もの」の生産への、移行技術の研究開発が望まれています。

価格破壊は、喜ぶべき現象なのでしょうか。過剰生産の結果、在庫調整が必要となり、安売り投げ売りによって発生する「ごみ（塵埃）」を無くすため、公的役割を認識した企業や、利用者・消費者の要求に応える新しい産業の育成が必要であると考えます。

このためには、市場についてのまったく新しい精度のよい計測法を必要とします。市場を科学する、市場の解析・分析ならびに市場の設計手法が、「もの造り」との接合面となります。これは、「かんぱん方式の統合システム」とも呼ぶべきもので、そのような社会と科学技術を整合させる企画構想を、支援するにふさわしい、新しい情報化施策も必要となりましょう。

2. 高等教育に望む

大学等の高等教育機関においては、基礎的・潜在的な地道な研究の蓄積をもって世を先導する役割が重要なことは論をまちません。そのための後継者の養成も大切ですが、大多数の社会に出て働く学生には、一般社会と学内社会との差異を認識し、それに対応した教育が必要です。

大学等は世の現状を理解し、社会に出る学生

の企画構想力の育成と、その能力を遺憾なく発揮する社会性を涵養することを望みます。

また、論文の数で競うのではなく、より良質な研究に資金の投入ができる方法をあみ出すことを期待いたします。

大学人が主導的役割を果たしているのが一般的である、高度専門家の非政府的集団としての学会についても、学会相互の連携を図り、新たな発展のための法や制度について、共に構想し企画することを希望します。

3. 国への期待

国が実施する産業政策については、何がフロンティアであるかをよく理解し、戦略的重点化を図るよう希望します。

たとえば、情報化の推進にあたっては、人間のコミュニケーション行為についての考察結果として、良質な情報を共有することにより、開かれた政府による、民主国家の構築といった構想を明らかにされることを望みます。

さらに、行政改革にともなう国立研究機関の法人化については、組織や制度を維持するための表面的な改革ではなく、国として、日本の社会で少なくなってきている長期的視点から取り組む研究課題は何か、どう取り組むのかについての構想を明らかにし、そのための組織・制度はどうあるべきか、といった順序で企画構想するようにしてほしいものです。時間で区切ることも大切ですが、本質をわきまえない拙速な改革は禍根を残します。

科学技術を、国民のため、人類のため、所信に基づき、正しく理解・把握し適用していきたいと考えています。

（本文は、以下の委員会でまとめた報告書を要約したものです。

政策委員会 企画構想力小委員会：

柏木寛（委員長） 石井吉徳 今井兼一郎
内田盛也 小野田武 川崎雅弘 隈部英一
鈴木浩 竹内良夫 富浦梓 堀内和夫